

中学校家庭分野での保育学習から家族・地域学習へとつながる学習

小口博子／三野たまき

研究概要

現在の中学校家庭分野「A 家族と家庭生活」の学習では、幼児理解や交流体験を中心とした授業実践が多く、家族関係に関する授業実践が少ない。現行学習指導要領の目標A（2）イ「これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考える」があまり授業で取り込まれていないと考えられる。そこで本研究ではこれまでの幼児との交流体験を中心とした「A 家族と家庭生活」の授業で生徒が「家族関係をよりよくする方法を考える」ことにつながっているかを検証し、文献調査や実践事例の分析、実践授業での生徒の学習カードの記述などから中学生が「家族関係をよりよくする方法を考える」授業を構想する。

研究目的

次期学習指導要領においても家庭科では、家族をはじめ、地域の人々など、人とのかかわりが重視されている。だが人とのかかわりを扱う「A 家族と家庭生活」の学習は、学習指導要領での位置付けの歴史が浅く、実践例が少ない（鈴木2004,伊深2016,村田他2017）ことや、また教師の側の「倫理的指導不安」（片田江2014）、「知識」や「技能」が明確でないことによる指導と評価の難しさ（福田2008）といったことから、幼児との交流体験を中心とした「A 家族と家庭生活」の学習を行っていると考えられる。そこで本研究では、これまでの幼児との交流体験を中心とした「A 家族と家庭生活」の学習を検証し、思春期にある中学生が、自分と自分の家族関係を見直し、よりよいかかわりを自分なりに考えてみようと思える授業を構想し、科研費に申請することを目的とした。

計画・方法

研究計画

- 7月 平成28年度に中学3年生に実施した実態調査の分析
- 8月 次期学習指導要領の分析
家庭科教育研究者連盟主催の研究集会等に参加し他県の実践事例を収集。自身の実践への意見交換
- 10月 現中学3年生への実態調査の実施。平成27年度「A 家族と家庭生活」履修生徒の調査結果と比較
科学研究助成事業に応募
- 11月 平成29年度関東甲信越ブロック技術・家庭科教育研究大会新潟大会に参加。他県の実践事例を収集
平成28年度実態調査と平成29年度実態調査の結果をまとめる。
日本家庭科教育学会例会での口頭発表や同学会誌に論文投稿をめざす。
- 通年 諏訪地区技術・家庭科研究会小・中学校部会家庭科研究部研究会等に参加
小中高の家族に関する学習の実践事例や論文等の収集整理

3 研究方法

- ①平成28年度に中学3年生に行った実態調査結果を分析
調査対象：平成27年度に「A 家族と家庭生活」の学習（幼児交流体験を中心）を中学2年で履修した生徒。
調査方法：「家族・友達・幼児」に対する自分の対応について記述式で回答したものを分類
なおこれは諏訪地区技術・家庭科研究会で小口が中心となって行った調査の一部であることから、同研究会と分析結果を共有する。分析結果を論文発表等で使用する場合は、同研究会会長の承諾を得る。
- ②生徒の学習カードの記述内容を分析
授業後に生徒から学習カードを集め、無記名で集計する。
- ③今年度中学3年生を対象に、平成28年度と同一内容で実態調査を実施。
調査対象：平成28年度に「A 家族と家庭生活」の学習（幼児交流体験後、家族関係にかかわる授業実施）を中学2年で履修した生徒。
調査方法：平成28年度に中学3年生に実施した実態調査と同様の方法で実施する
- ④授業の様子を写真や録画等で記録し分析。校内規定に準じて生徒の肖像権に配慮し、原則として公開しない。

参考文献

- 伊深祥子「家庭科における家族の授業分析」日本家庭科教育学会誌,58（4）,232-239,2016,
片田江「家族教育にける「倫理的な指導不安」：生徒のプライバシー保護と家庭科教員の不安をめぐる現象的研究」日本家庭科教育学会誌,56（4）,
194-202,2014
鈴木敏子「衣食住・家族の学びのリニューアル 家庭科カリキュラム開発の視点」日本家庭科教育学会編,明治図書,2004,
福田恵子「授業力up家庭科の授業」鶴田敦子編著,日本標準,2008
村田他「実践論文に見る中学校家庭分野「家族」教育の現状と課題—全日本中学校技術・家庭科研究会機関誌「理論と実践」を対象として」日本家庭科教育学会誌,60（1）,24-30,2017